

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	運動・学習療育アップ世田谷教室		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		~ 令和8年 1月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		~ 令和7年 12月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 11月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門的な支援を実施することが出来る。	・2ヶ月の期間で特定の運動機能を高めるトレーニングを実施。簡単な内容も要素の中に取り入れ、幅広い年齢のお子様が活動出来るよう工夫している。 ・年間スケジュールは学校行事や体育の授業のタイミングに合うよう調整し、実践がしやすいよう工夫をしている。	・道具の入れ替えや、室内の様式替えなどを行い、安全かつ新しい景色で集中が続くようにしていく。
2	・様々な資格を持った職員の配置で、運動面以外の支援のサポートが出来ている。	・行き渋り等が起きた際に、聞き取り等の時間を設けて、本人の気持ちに寄り添う事を大事にしている。	・長時間の支援時間となり、疲労を訴えるお子様も多いので、休憩時間や机上活動の中で専門的な支援が強化できるよう準備を整える。
3	・フィールド療育を実施している。	・有酸素運動やボールを蹴るなどの運動を中心に活動。スタジオでは空間に限界がある為、子ども達が伸び伸びと運動を楽しむことができるような時間を設けている。	・安全を第一優先に支援を実施する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・運動スペースが狭いと感じる。	・元々の間取りだけでなく、年齢層が高くなりはじめ、見た目としても狭く感じるようになった。	・道具を減らす。 ・収納スペースを確保し、常に広々と運動ができるよう準備する。
2	・スタジオ内の老朽化が目立つ。	・代替できる空間を確保することが難しい。	・事務所職員でできる補修作業などは実施しているので、引き続き細かく修正し、大きな工事が必要となる場合は会社を通して話し合いを行う。
3	・利用が安定しない。(欠席になることが多い)	・習い事感覚ではなく、療育としての資本を入念に伝えていく必要がある。 そのためにも職員(支援者)への指導の時間も必要。	・支援以外のマナー講座や、アンガーマネジメントなどの研修を実施し、支援の場面以外でも評価を頂けるよう教育を行う。

公表

事業所における自己評価総括表(放課後等デイサービス)

○事業所名	運動・学習療育アップ世田谷教室		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		令和8年 1月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54 (回答者数)	33
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		令和7年 12月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 11月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門的な支援を実施することが出来る。	・2ヶ月の期間で特定の運動機能を高めるトレーニングを実施。簡単な内容も要素の中に取り入れ、幅広い年齢のお子様が可能になるよう工夫している。 ・年間スケジュールは学校行事や体育の授業のタイミングに合うよう調整し、実践がしやすいよう工夫をしている。	・道具の入れ替えや、室内の模様替えなどを行い、安全かつ新しい景色で集中が続くようにしていく。
2	・様々な資格を持った職員の配置で、運動面以外の支援のサポートが出来ている。	・行き渋り等が起きた際に、聞き取り等の時間を設けて、本人の気持ちに寄り添う事を大事にしている。	・長時間の支援時間となり、疲労を訴えるお子様も多いので、休憩時間や机上活動の中で専門的な支援が強化できるよう準備を整える。
3	・フィールド療育を実施している。	・有酸素運動やボールを蹴るなどの運動を中心に活動。スタジオでは空間に限界がある為、子ども達が伸び伸びと運動を楽しむことができるような時間を設けている。	・安全を第一優先に支援を実施する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・スタジオ内の老朽化が目立つ。	・代替できる空間を確保することが難しい。	・事務所職員でできる補修作業などは実施しているので、引き続き細かく修正し、大きな工事が必要となる場合は会社を通して話し合いを行う。
2	・利用が安定しない。(欠席になることが多い)	・習い事感覚ではなく、療育としての資本を入念に伝えていく必要がある。 そのためにも職員(支援者)への指導の時間が必要。	・支援以外のマナー講座や、アンガーマネジメントなどの研修を実施し、支援の場面以外でも評価を頂けるよう教育を行う。
3	・定員に達する日が多く、新規受け入れが難しい。	・放課後等デイサービスの利用希望者が年々増加している。 新規の受け入れが難しい状況にある。	・登録のみで、しばらく欠席が続いている利用者の方には、一度ご退会の誘導をさせて頂き、枠として埋まっているだけのクラスを減少させて行く。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 運動・学習療育アップ世田谷教室

公表日 令和8年3月13日

利用児童数 84名

回収数 48

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	39	8	1	0	・荷物置きスペースを増やしてほしい。	・ロッカーを増やすことは難しいので、室内に置き場所を増やすなどして対策をしております。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	45	0	0	3		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	45	1	0	2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	43	1	1	3		
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	36	4	0	8		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	47	0	0	1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されていると思いますか。	48	0	0	0		
	8 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインおよび放課後等デイサービスの「児童発達支援(放課後等デイサービス)の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	46	1	0	1		
	9 個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	45	1	0	2		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	45	0	0	3		
	11 (児童発達支援のみ) 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	20	3	11	14		
	12 (放課後等デイサービスのみ) 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	44	2	0	1		
保護者 への 説明等	13 事業所を利用する際に、契約内容、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	46	1	0	1		
	14 「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	46	4	0	1		
	15 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24	6	7	11		
	16 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていていると思いますか。	46	2	0	0		
	17 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	46	2	0	0		
	18 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	45	1	0	2		
	19 保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	44	1	1	1	・兄弟を参加させたいが空きがない。	・放課後等デイサービスのクラスは、新規の方はもちろん現利用者の方の移動も難しい状況でございます。大変申し訳ございません。

	20	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	46	1	1	2		
	21	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	46	1	1	0		
	22	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	38	2	1	7		
	23	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	46	2	0	0	・改善されたので安心している。	
非常時等の対応	24	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	48	0	0	0		
	25	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	48	0	0	0		
	26	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	48	0	0	0		
	27	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	46	2	0	0		
満足度	28	子どもは安心感をもって通所していますか。	48	0	0	0		
	29	子どもは通所を楽しみにしていますか。	47	1	0	0		
	30	事業所の支援に満足していますか。	47	1	0	0	・楽しく通えているが、特別成長を感じたことも少ない。	・クラスの年齢層や人数によって、取りくめる活動にも限界があり、ご満足頂けていない部分も多いかと思ます。グループ編成を行うなどで対策をいたします。
	31	その他・ご要望						

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		運動・学習療育アップ世田谷教室				公表日	令和8年3月13日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	1	8	・少し狭いと感じる空間であれば、個別に児童の様子を伺いやすいので安全に取り組んでいる。	・曜日によっては狭さを厳しく感じることもある。少人数に編成するなど実施し、安全に実施する。		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9					
業務改善	5 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9					
	6 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	9					
	7 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9					
	8 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9					
適切な支援の提供	9 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9					
	10 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	9					
	11 個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9					
	12 個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9					
	13 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインおよび放課後等デイサービスガイドラインの「児童発達支援(放課後等デイサービス)の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9					
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9					
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9			・週ごとに内容を変更し、固定化しないよう心掛けているが保護者様への伝達が上手く伝わらないことがある。		
	16 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		・専門資格を持った職員同士の会議を導入。より児童の様子が明確になり、それ以外の会議の際に意見がまとまりやすくなった。			
17 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9						

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9			
	20	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9			
関係機関や保護者との連携	21	(児童発達支援のみ) 地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			
	22	(児童発達支援のみ) 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9			
	23	(児童発達支援のみ) 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9			
	24	(放課後等デイサービスののみ) 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	9			
	25	(放課後等デイサービスののみ) こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。				
	26	(放課後等デイサービスののみ) 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9			
	27	(放課後等デイサービスののみ) 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9			
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9			
	29	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。				
	30	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	9			
	31	(児童発達支援のみ) 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9			
32	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9				
33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9				
保	34	契約内容、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	35	個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			
	36	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	9			
	37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9			

護者への説明等	38	保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9		
	39	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		・昨年のご意見を元に、連絡帳を受け取る担当者の固定をするなどで責任をもって安全に管理することを徹底した。
	41	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		
	42	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9		
非常時等の対応	43	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		
	44	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		
	45	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		
	46	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		
	47	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		
	48	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		
	49	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		
	50	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		
	51	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	9		